

令和5年度第1回千代田区生物多様性推進会議 議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時
令和5年7月19日(水) 14時00分～16時00分
2. 開催場所・方法
千代田区役所4階 会議室AB ※WEB会議と会場の併用
3. 出席委員(11名)
亀山委員(座長)、加藤委員(副座長)、城委員、竹内委員、渡邊委員、大井委員、
坂口委員、積田委員、森川委員、青山委員、印出井委員
4. 欠席委員(1名)
須田委員
5. 事務局及び関係者(7名)
山崎環境政策課長、松下企画調査係長、山浦事業推進担当係長、落合エネルギー対
策係長、株式会社地域環境計画(3名)

(次第)

1. 開会
2. 議題
 - (1) ちよだ生物多様性推進プランの改定について
 - ①2050年目標、2030年目標について
 - ②ネイチャーポジティブの考え方について
 - ③社会変革・行動変容の促し方について
 - ④30by30につながる生態系ネットワークの形成・強化について
 - ⑤主体間連携・施策連携を進める中で、事業をより一層推進するための
主体ができることについて
 - (2) 千代田区生きものさがし2023春編の結果について
 - (3) 令和5年度ちよだ生物多様性大賞の募集について
3. 閉会

(配付資料)

- ・ 次第
- ・ 委員名簿

- (資料1) 令和4年度第2回 生物多様性推進会議 委員意見及び対応方針案
- (資料2) ちよだ生物多様性推進プラン (素案) (案)
- (資料3) ちよだ生物多様性推進プラン改定素案資料編 (案)
- (資料4) 千代田区生きものさがし 2023 春編の結果について
- (資料5) 令和5年度ちよだ生物多様性大賞の募集について
- (参考資料1) 国内外動向、国と都戦略の目標を踏まえた目標の考え方
- (参考資料2) 行動計画の体系について
- (参考資料2別紙) 2030年目標を達成するための戦略と達成すべき状態・主な取組み (案)
- (参考資料3) 生態系ネットワークの形成・強化について
- (参考資料4) 行動計画・主な取組みの具体的進め方について
- (参考) 令和4年度第2回千代田区生物多様性推進会議 議事要旨

(議事要旨)

1. 開会

2. 議事

(1) ちよだ生物多様性推進プランの改定について

① 2050年目標、2030年目標について

< 亀山委員 >

・ネイチャーポジティブの実現、指標になる数字があるとわかりやすい。どういう状況がネイチャーポジティブな状態になっていると言えるのか、皆様からご意見を伺いたい。

< 加藤委員 >

・何を尺度にするかにとらえるかによって違ってくる。基準をはっきりさせることが重要ではないか。基準の取り方として生物の生息の可能性の視点を置いて、生物の生息できる空間がどれだけあるのか、それともっと広く環境を考えて、様々な環境指標などそういったものを含めて考えるのか、どういった視点を採用するのか、あくまで生物多様性の範疇で考えるのか、またはより広くとらえて、環境問題全般の考え方でいくのか。そこをはっきりさせる必要がある。

<亀山委員>

・幅広く、例えば調達の問題なども含めるかによってかなり違ってくる。それとも生物多様性の枠の中で考えるか。事務局としてはどのような考えか。

<事務局>

・今回お示しした、2030年、2050年目標への戦略Ⅰ～Ⅲでみていくと、生物多様性・自然と生きものだけでなく、地球温暖化対策の一つの取組みとして関係してくるので、より広くとらえて戦略をつくっていく必要があると考える。

その点で皆様のご意見をいただければと思う。

<積田委員>

・手つかずの自然をそのままにして放置して、安定して続いていくのが生物多様性というイメージだったが、これだけ都市化した千代田区ではそういうことではないだろう。我々の生活を取り巻く生きもの、緑、環境を意識した活動にしていく、そういうイメージだろう。

毎朝、千鳥ヶ淵緑道や田安門近辺を歩いているが、桜の木が弱っているのを見る。さくら祭を続けていくためにも、何らかの方策を設けて、切るものは切って新しいものに植え替えるなど、桜の木を更新していかなければならないと考える。

<大井委員>

・千代田区として考えると、豊かな自然を残す・増やすはイメージが湧かない。千代田区のイメージに合わせた「ネイチャーポジティブ」の翻訳が必要だろう。食ロスやカーボンニュートラル、あるいは生物多様性などそういう翻訳をしないと活動に結び付かない。

<亀山委員>

・世の中一般で言われている「ネイチャーポジティブ」と、千代田区がイメージする「ネイチャーポジティブ」とは同じでは無いだろう。

<印出井委員>

・亀山座長の言うとおりに、都市機能の集積した千代田区のネイチャーポジティブは世間一般のネイチャーポジティブだと違和感がある。場所によっては引き続き保全という大前提はあるが、ただ単に緑を増やせば良いということではなく、都市における生物多様性を発現させる手法にはどんなものがあるか、まさに桜を文化的なものとした時にどのように機能更新していくかなど、具体的な行動計画などに落とし込んでいければと考えている。

<亀山委員>

・千代田区のネイチャーポジティブとは何かを意識して必要であると認識して議論していくということでしょうか。

<加藤委員>

・2030年の姿を思い浮かべるのはなかなか難しい。2050年は目標というよりも2030年で目標が達成されて、将来像を描くということで良いのではないかと。

<印出井委員>

・生物多様性と地球温暖化対策は密接に結び付いている。
生物多様性は2030目標を達成したあと、2050の将来像を描くということで事務局で検討して、次回に向けて整理していきたい。

<事務局>

・都心におけるネイチャーポジティブの実現など、都市ならではの文言を入れるなどの形で考えていきたい。

<加藤委員>

・生物多様性を支える植生が形になってくるのは15年から20年くらいかかる。
2030年に生物多様性を支える空間を作って、2050に育って形になってくるということがバックグラウンドにある。

<亀山委員>

・2050年目標案の文中で示されている「あたりまえになり」「つかいこなされている」は中身が分かりにくい。目標であるならばもう少し分かりやすい言葉にした方がよい。

②ネイチャーポジティブの考え方について

<亀山委員>

ネイチャーポジティブという言葉はどうやって区民に分かってもらえるか。
もう少し分かりやすく、共有できていないといけない。皆がこの言葉をなじみのあるようにするには別の言い方がよいのか、皆が使えるようにしなければならない。

<竹内委員>

・今の自然環境から得ている恩恵を将来にも受けられるようなことを具体的に示せると良いが難しい。区民にとってできることを発信して、どんな行動が“ネイチャーポジティブ”に貢献したことになるのか、示すことができると良い。

<青山委員>

・東京都の新規戦略では、具体的な行動方針や行動変容について記載している。しかし、自分たちの生活の中で何をすればよいかまでは伝えきれていない。ネイチャーポジティブは、①生物の生息空間や生物種のこと、②具体的行動がどれだけ積みあがっているのかの2つで計ることができるのではないかと考える。

<亀山委員>

・生きものだけに留めるととらえると具体的に計れるが、広くとらえていくと状態イメージがぼやけていく。そこをどうにか分かりやすくしていけるとよい。

<印出井委員>

・都市で機能更新が進められる中で、様々な生物や植物が共存できるようにすることが千代田区における取組みの肝があるのではないかと考える。もう一つは、神田等の中小企業のビルや建物の建て替えなどでネイチャーポジティブを構成できるような支援ができないかなど、そんなイメージがある。

<大井委員>

・参加型の体験活動が少ない。屋上菜園など、市民、在勤者の参加型の取組みがもっとできるとよい。

<印出井委員>

・区民農園などは継続していくうえでは質を維持向上させるためのアドバイザー人材やノウハウの共有が必要であると考えます。

<坂口委員>

・まずネイチャーポジティブの概念を区民が知る、認知度を上げていくこと、次に、企業（の在勤者）が参加できることを増やしていくこと、そのような仕組みができると区の特徴を活かしたものになる。さらに次の段階で、そのような取り組みを日本や世界にも発信していく、子供たちへ周知をすることで親にも伝わる。そのような環境教育、周知をしていくことが良いのではないかと考える。

<亀山委員>

・ネイチャーポジティブの「運動」を区でやっていく、という視点が大事ではないかと考える。

<渡邊委員>

・学校の屋上に菜園やビオトープがあり、色々な生きものが集まって児童の体験の場になっている。ただし、簡単に増やせるものではない。関係者の意識、協力体制を整えていくことが必要になる。学校を軸に地域で共同して活動に取り組んでいくという体制が重要である。

<加藤委員>

・ネイチャーポジティブを広く考えると、生物多様性を支える様々な取組み・活動の状態まで含まれてくる。それらは目標ではなく、手段として位置付けるのが良いのではないか。

<事務局>

・ネイチャーポジティブの実現とはどんな状態か、もっと分かりやすくイメージ図を具体的に絵にするなども大事ではないかと考えた。
ネイチャーポジティブが実現している絵はどんなイメージがあるか、意見を出していただけると参考になる。

<亀山委員>

・生きものを中心に置いて考えていった方が分かりやすいことは確かである。しかし、地球温暖化対策などより広くとらえていくことも必要である。千代田区としてどうしていきたいか明確にしておいた方が良い。そのあたりが大きな分かれ目となる。

<印出井委員>

・全体の枠組みを理解したうえで、皇居を中心とした生きものは23区の中で唯一のものなので、そのあたりに焦点を置いた発信をして特色を出していくことが必要だと考えた。

③社会変革・行動変容の促し方について

<亀山委員>

- ・社会変容を考えるときに、区として行政としてどう考え、何ができるか。

<事務局>

- ・事業者、区民の取組がネイチャーポジティブに向かってできること、関心の低い人に向けてどう訴えかけていくか、どんな活動が受け入れられるか、伝え方など、アイデアをいただきたい。

<亀山委員>

- ・従来の行政手法にはあまりなかった“運動”をどのように作り出していくかが大事である。具体的な行動の提案がいただけると良い。

<印出井委員>

- ・千代田区外にも影響するようなこと、行動の背後に区外の生物多様性にどんな影響・関係があるのかを伝えていくことが区の役割の一つと考えている。そのような知恵とアイデアをいただけたらと思う。

<城委員>

- ・示された行動計画ではプラスで何ができるかの行動変容が多い。例えば外来種を放たない、油を流さないなどのマイナスなことをしないということによってネイチャーポジティブに貢献できること、どんなことが損失につながるのかを示していく、そういったアプローチも大事ではないかと考える。

<竹内委員>

- ・事業所の多い大丸有エリアであるが、事業者としてやるのが資料に記載されている。個別の事業者ではやっているが、地域周辺の他の事業者と連携してできていることが少ない。だれかが勝手にやっているではなく、色々な主体を巻き込んでエリア全体で観察会等をやっているようなこと、そのような方向を探っている。同業者間での横のつながりを活かして、エリア間、区とも連携して相互の取組を広げていくようなことができると良い。

<印出井委員>

- ・そのような取り組みの輪、ネットワークを地域・エリアでシェアして広げていく、良いアイデアである。

<亀山委員>

・公開空地をつなげて広げることができていない。人々の取組をどうやってエリアで広げて考えていけるか、そこが生物多様性にとって重要であると考えている。

④30by30につながる生態系ネットワークの形成・強化について

<亀山委員>

・皇居について、どういう意識であるべきか。千代田区の中心にある大事な緑地であるという意識は重要である。

<坂口委員>

・皇居のお濠の水を浄化していく、そこに企業や区民が関わっていくようなことができるとう良い。

<事務局>

・エコロジカルネットワークの図がある。皇居を核として考えていただけたらと考える。緑化の指導も行っている。

<亀山委員>

・街路樹情報について説明いただきたい。

<事務局>

・区内の街路樹データベース化を昨年度行っている。
今後、このデータベースの活用をどのように考えていくか、それも含めてご意見をいただきたい。

<積田委員>

・街路樹に使われているイチョウは、火に強いということで震災以降に街道に植えている。大手濠緑地に「震災イチョウ」というものが残っている。防火帯としての機能なども利用しながら考えていけると良い。

<加藤委員>

・まず生物の生息地となっているところや移動のための空間になっている場所をリストアップすることから始めないといけない。生物の生息地に重要な場所がどこかを明らかにし、そのうえで劣化しているところ、生物の生息地になっていない生物多様性が低い場所を何か手を加えて生物が生息に適した場所にしていくことを考えていく必要がある。また、街路樹もあるが、区内の巨樹巨木（大径木）の調査が行われているので、その情報が環境教育や環境学習といった生物多様性に有効ではないか。

<印出井委員>

・千代田区内にある場所がOECMの認証を受けられるかについて、区で補助金等を出すことは難しいところがある。収益が発生しない土地を作ることになるので、インセンティブ等の提案や要望を発信していくことも有りだと考えている。

<青山委員>

・企業の緑地はOECMのポテンシャルがある。区有地や都立公園などもある。そういうところを含めて、区として30by30に貢献していくことを考えていけると良い。

⑤主体間連携・施策連携を進める中で、事業をより一層推進するための主体ができることについて

<城委員>

・今年から対面のイベントが開始できるようになり、生物多様性を身近に感じられる機会を提供していける。自社だけだと限界があるので、他事業者と連携してやっていけることがあると大きな効果があると考えている。

<青山委員>

・行政ができることは限られているため、企業やNPO・NGOなど連携して取り組みを担っていただけたところが増えていくと良い。
東京都が進めるNbSのアクションについて、具体的にどんなことが該当するか、国交省のグリーンインフラなど、分かりやすい事例を検討している。

<事務局>

・今後、また良いご提案があれば事務局に連絡いただきたい。

(2) 千代田生きものさがし 2023 春編の結果について

- ・ 事務局より資料4の説明

< 亀山委員 >

- ・ スマホアプリだと貴重種は情報が少なく検索ヒットし難いという特性がある。

< 加藤委員 >

- ・ 多くの方が関心を持って参加してもらったということは良い。継続のためには「参加してよかったな」と思える、仕組み、仕掛けがあると良い。

< 坂口委員 >

- ・ 応募数は大丸有地区が突出して多かったが、キャンペーンなど何か特別な周知があったのか。ヒントになるようなものがあれば、他地区でも広がれば良いのではと思う。

(3) 令和5年度ちよだ生物多様性大賞の募集について

- ・ 事務局より資料5の説明

(4) その他、委員意見

< 積田委員 >

- ・ 以前は生物や自然のことを伝えられる人が多くいた。しかし、一時期生物の教員採用が無いこともあり、伝えられる人材が減っている。学校に振れば、生きもの、自然の教育ができるという考えは難しい。人材づくりからやる必要がある。何か具体的なことをイベントとして設け、人を集め育てることをやらないといけない。

3. 閉会

- ・ 事務局より
 - ・ 次回の推進会議は今年10月に開催予定である。

以上